



図4. スネリウスヨコバサミ (新称)
Clibanarius snelliusi Buitendijk, 1937.
沖縄産。©設楽裕之。



図5. シマヨコバサミ
Clibanarius rhabdodactylus Forest,
1953. 沖縄産。©設楽裕之。

ところもあり、今後生きていて十分に成長した個体を採集して最終的な決着をしたい。なお沖縄海中生物図鑑(1988)にあるマダラヨコバサミとして写っている写真は、タテジマヨコバサミである。

5. ランソンヨコバサミ (新称)

Clibanarius ransoni Forest, 1953
(図2I, 3N, O)

本種はタヒチ、ベトナム、インドネシアから記録がある (Forest, 1953; Fize & Serène, 1955; Rahayu & Forest, 1992) が、石垣島の宮良の干潟潮間帯から採集された。ただしアルコール固定標本であり、生時の色彩はわからなかった。再度、生きている個体または新鮮な固定標本をもとに、正確な再記載を試みたい。形態的には短指型の特徴を有する。

6. スネリウスヨコバサミ (新称)

Clibanarius snelliusi Buitendijk, 1937
(図1C, D; 図4)

本種はインドネシア、ニューギニア、ベトナムから知られていた (Buitendijk, 1937; Fize & Serène, 1955; Ball & Haig, 1972; Rahayu & Forest, 1992) が、沖縄の亜潮間帯から採集された。形態的には短指型の特徴を有する。色彩は第1触角の鞭状部と第2触角の柄部先端半分および鞭状部は鮮やかな赤、眼柄は赤みがかかった茶色。シールド、鉗脚、歩脚は全体的に茶色がかかった鮮やかな赤紫色で、白い棘またはパッチを散らす。歩脚指節および前節の一部に白いストライプがある。

7. ツマキヨコバサミ (新称)

Clibanarius enclausus Ball & Haig,
1972 (図2A, B; 図3C, D)

本種はインドネシア、ニューギニア (Ball & Haig, 1972; Haig & Ball, 1988; Rahayu & Forest, 1992) から知られていたが、日本の亜熱帯の岩礁

に普通に産する。形態的には短指型の特徴を有する。形態、色彩ともにマダラヨコバサミに酷似するが歩脚の色彩型が異なる。第1触角鞭状部はオレンジ色で柄部は濁った青緑色、第2触角柄部先端半分と鞭状部は赤で柄部後端半分は濁った青緑色、眼柄はオレンジ色で上部根元から先端にむかう濃い茶色の部分があり複眼の根元は淡い色。シールドは灰茶褐色で不規則な濃淡があり前側部から鰓蓋前半までは濁った青緑色。鉗脚は茶色がかかった青緑色で棘は淡い褐色、指節と不動指先端は淡い褐色。第2脚は茶色がかかった青緑色で、指節先端部は淡褐色、中央部は茶色がかかった青緑色、後端部は根元にむかって淡い褐色からオレンジ色のグラデーション、前節は先端部が淡い褐色かオレンジ色、そのほかの歩脚の部分は茶色がかかった青緑色。第3脚も第2脚に似るが、指節中央の色が薄くなり、前節先端部の淡い色の部分が大きくなり、前節の後ろ半分および腕節後半がオレンジ色となることある。なお内海 (1975) の図鑑にあるマダラヨコバサミには本種の写真が写っている。

8. タテジマヨコバサミ

Clibanarius striolatus Dana, 1852
(図2G, 図3J, K)

奄美以南の亜熱帯、熱帯の干潟の潮間帯にごく普通に見られるが、Miyake et al. (1962) は、日本海の富山湾から記録し、Miyake (1978) は相模湾からトロールで採集した報告している。しかし採集深度、採集地の気候、採集方法を考えるとコブヨコバサミの誤同定であったことはほぼ間違いない。

9. シマヨコバサミ

Clibanarius rhabdodactylus Forest, 1953
(図5)

三宅 (1982, 1998) では *C. zebra rhabdodactylus* Forest, 1953 となってい

るが、Rahayu and Forest (1992) はこれを種に昇格させ、表記の学名となった。Miyake (1956) によってトカラ列島から記録されたが、沖縄や奄美など各地に分布する。

謝辞

研究費を出していただいた水産脊椎動物研究所、野外調査でお世話になった有馬康文氏、円忠蔵氏をはじめとする奄美大島の皆様、カラー写真を提供していただいた設楽裕之氏に厚く御礼申し上げます。

参考文献 (代表的なもののみ掲げる)

- Ball, E. E. Jr., and J. Haig. 1972. Hermit crabs from eastern New Guinea. *Pac. Sci.*, 26: 87-107.
- Buitendijk, A. M. 1937. Biological results of the Snellius Expedition. IV. The Paguridea of the Snellius Expedition. *Temminckia*, 2: 251-280.
- Fize, A., and Serène. 1955. Les Pagures du Vietnam. *Inst. Océanogr. Nhatrang*, 45: i-ix, 1-228, pls 1-6.
- Forest, J. 1953. Crustacés Décapodes Marcheurs des Iles Tahiti et des Tuamotu. I. Paguridea. *Bull. Mus. natl. Hist. nat., Paris*, 2^e sér., 25: 44 1-450.
- Haig, J., and E. E. Ball. 1988. Hermit crabs from north Australian and eastern Indonesian waters (Crustacea Decapoda: Anomura: Paguroidea) collected during the 1975 Alpha Helix Expedition. *Rec. Aust. Mus.*, 40: 151-196.
- 海中公園センター監修. 1988. 沖縄海中生物図鑑: 甲殻類 (エビ・ヤドカリ). 新星図書、浦添市、232pp.
- Melin, G. 1939. Paguriden und Galatheiden von Prof. Dr. Sixten Bocks Expedition nach den Bonin-Inseln 1914. *Kongl. Sevens. Vetens. Akad. Handl. Stockholm (Tredje Ser.)*, 18: 1-119.
- Miyake, S. 1956. Invertebrate fauna of the intertidal zone of the Tokara Islands. XIII Anomura. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 5: 1-35.
- Miyake, S. 1978. The crustacean Anomura of Sagami Bay. Tokyo: Biological Laboratory, Imperial Household, 200 pp., 4 pls.
- 三宅貞祥. 1982. 原色日本大型甲殻類図鑑 I. 保育社、大阪、261 pp.
- 三宅貞祥. 1998. 原色日本大型甲殻類図鑑 I (部分改訂第3刷). 保育社、大阪、261 pp.
- 内海富士夫編. 1975. 学研中高生図鑑: 水生動物. 学習研究社、東京、342 pp.
- Rahayu, D. L. 1999. Descriptions of two new species of hermit crabs, *Clibanarius rubroviridis* and *C. rutilus* (Crustacea: Anomura: Diogenidae) from Indonesia. *Ruff. Bull. Zool.*, 47: 299-307.
- Rahayu, D. L., and J. Forest. 1992. Le genre *Clibanarius* (Crustacea, Decapoda, Diogenidae) en Indonésie, avec la description de six espèces nouvelles. *Bull. Mus. natl. Hist. nat., Paris*, 4^e sér., 14: 745-779.